「知ってる？幡羅官衙遺跡」

ふかやに幡羅官衙遺跡？あるある！ 深谷市

No.11　多賀城で出土した「幡羅郡」

深谷から遠く離れた宮城県から、「幡羅郡」と記された木簡が出土しました。木簡には表に「武蔵国幡羅郡米五斗　部領使　刑部古万呂？」、裏面に「大同四年」と記される。五斗の米に付けられた荷札であり、それを運んだのは部領使（引率して人や物を送り届けるための使者）の「刑部古万呂？」という人物だったことがわかります。この頃の五斗は約 30kg と思われるので、隊列を組んで運んだ荷物の中の米五斗に付けられていたのでしょう。受け取り先は東北経営の要である多賀城でした。

当時の日本の中央政府は、帰属しない人々を蝦夷と呼んで征服すべき夷狄と位置付けていました。征夷大将軍は、本来その派遣軍の将軍のことです。奈良時代の終わりから平安時代の初めにかけては、38 年戦争とも呼ばれる戦争状態にあり、大同4年（809）は正にそのさなかでした。運搬された米は兵糧米、または陸奥国の公廨（国司の俸給）だった可能性があります。

この木簡は、律令国家の東北経営に幡羅郡が関わっていたことや、交通や物流の状況、幡羅郡に存在した人物名など、多くの情報を提供してくれます。

次回は、平城京で出土した「幡羅郡」です。お楽しみに！

【多賀城出土木簡】